

言語活動の充実に関する実践事例

学校名（東広島市立平岩小学校）

- ① 教科等 社会科 ② 学年 第4学年
- ③ 単元名 「ぼくたち 平岩まもり隊！ ～ふせごう，交通事故や事件～」
- ④ 本時の目標 校区内のどこに新しく信号機をつけたらよいかを話し合い，意見交流する中で校区の危険箇所を判断できる。
- ⑤ 学習の流れ（10時間目／全11時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
<p>1 これまでの学習を振り返り，学習課題を確認する。</p>	<p>・これまでの学習から，安全マップ上の危険箇所や安全な箇所を明らかにしたうえで，その解決策を考えていくことを伝える。</p>	<p>・どんなところに信号機をつけたらよいか，誰を守るための信号機をつけたらよいかを明確にし，ノートにつけたい箇所とその根拠を書いている。〔社会的な思考・判断・表現〕（ノート）</p>
<p>校区内のどこに新しく信号機をつけたらよいか考えよう。</p>		
<p>2 校区内に新しく信号機をつけるなら，どんなところにつけたらよいか，誰を守りたいかを話し合い，考えをノートに書く。</p>	<p>・何が危険なのか，誰を守るために信号機をつけるのかポイントを絞って考えを出させる。 ・登下校中や校区内見学で調べた記録から，どこが危険な場所か思い出させ，信号機をつけたい箇所の根拠を明確にさせる。</p>	
<p>校区内の交差点の写真→横断歩道があり，信号機がついていない交差点がよい。 校区内の交差点の交通量（8～10時）を自動車の絵で表したデータ→交通量が多い交差点がよい。</p>		
<p>校区内の交差点を通る通学者の数→歩行者を守る信号機をつけたい。</p>		
<p>3 交通量や人通りの多さ，信号機をつけた場合の利点や弊害も考えて，どこに信号機をつけたらよいかを判断し，話し合う。</p>	<p>どこに，どうして信号機をつけたらよいのだろうか。</p> <p>・なぜこの箇所に信号機をつけようと思ったのか，生活経験を考えの根拠として，写真やデータから読み取ったことと関連させながら説明させる。 〈予想される児童の説明〉 ・〇〇交差点は交通量が多いので，信号機を付けた方がいいと考えました。 ・□□交差点は児童がたくさん通るけど，朝だけなので，いつも交通量が多い〇〇交差点に信号機を付けた方がいいと考えました。 など ・何が危険なのか，誰を守りたいかを柱にしてポイントを絞った話し合いをさせる。</p>	<p>・交差点の写真，交通量を生活経験と関連付けて，信号機をつけたらよい箇所の説明をしている。〔社会的な思考・判断・表現〕（発言・ノート）</p>
<p>4 どこが危険箇所なのか，信号機をつけることで誰を守るのか，考えをノートにまとめる。</p>	<p>・フォーマットを活用し，学習した内容を振り返らせる。</p>	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 自分の地域の危険箇所に着目して，生活経験を根拠にして信号機をつけたらよい箇所を考え，判断し，地図や写真，データなどの資料と関連付けて説明することができる。

言語活動の充実のための工夫

- 個の考えを明確にさせるために自分の考えをノートに書き，思考を整理させる。
- 思考を深めるために判断のポイントを絞り，根拠を明確にして発言できるよう発問を工夫する。
- 根拠や解釈を示して説明させるために写真やデータを活用させる。